

ふれあいの森なんでも工房 25 周年記念行事

見学日：(2026/06/21)

場所：ふれあいの森なんでも工房（山口県周南市須々万本郷 1153-1）

1. 取材の目的

「ふれあいの森なんでも工房」の 25 周年記念行事を取材し、活動内容や地域への役割、参加者の様子を通して、同団体が目指す「森は人を育み、人が森を育む」という理念を学ぶことを目的として訪問した。

2. ふれあいの森なんでも工房について

「ふれあいの森なんでも工房」は、約 6 万坪の森林公園内に整備された約 1,500 坪の「ふれあい広場」を拠点として活動している市民ボランティア団体である。

「森は人を育む・人が森を育む」を基本理念に掲げ、「元気なこども、元気なおとなを育む森」をコンセプトとして、自然体験や交流活動を通じた地域づくりを進めている。

運営は市民ボランティアが担い、世話人代表は村田真博さん。また、周南市議会議員 古賀洋子さんも継続的に活動を応援されている。



自然豊かな広場では、多くの来場者が思い思いに過ごせる空間でした。

3. 25 周年記念行事の様子

当日は受付開始の午前 10 時から続々と参加者が集まり、これまでで最多となる 160 名を超える来場者で会場は大変な賑わいとなった。

今回の記念行事では、第一回となる「ふれ森コンサート」と子ども食堂が開催され、多世代が交流できる一日となっていた。

・第一回ふれ森コンサート

コンサートでは、ハンドベルグループ：グロリア・リンガーズ（指揮者：野村文子さん）による演奏が披露された。「森のくまさん」をはじめ全 11 曲が演奏され、ほぼすべての参加者がステージ前に集まり、美しいハンドベルの音色に耳を傾けていた。

森に響き渡る優しい音色は、自然と調和し、会場全体が穏やかな雰囲気に包まれていた。



多くの参加者が演奏を楽しみ、会場は温かな拍手に包まれた。

・子ども食堂

昼食には子ども食堂が開かれ、ボランティアの皆さんが心を込めて「軍艦カレー」を調理された。味付けにはココナッツを加えるなど独自の工夫が施され、香り豊かなカレーに仕上げられていた。

子どもたちはもちろん、大人も笑顔でカレーを味わい、会場には温かな交流の輪が広がっていた。

特に、初めて参加した桜が丘高校野球部の部員たちは元気いっぱい、二度もおかわりをする姿が見られ、その旺盛な食欲に会場から笑顔がこぼれていた。



ボランティアの皆さんが協力してカレーを調理。

子どもたちがおいしそうにカレーを頬張る姿が印象的だった。

4. 世代を超えた交流の場

この日は桜が丘高校野球部が初めて参加し、広場では子どもたちと一緒にボール遊びをするなど、会場全体を明るく盛り上げていた。小さな子どもから高齢者までが自然の中で交流し、それぞれが笑顔で過ごす様子は、地域のつながりの大切さを感じる光景だった。



高校生と子どもたちが元気いっぱいに遊ぶ様子。

5. 取材を終えて

今回の取材を通して最も印象に残ったのは、83歳とは思えないほど精力的に会場を動き回り、来場者一人ひとりに声を掛けておられた世話人代表・村田真博さん（赤い帽子がトレードマーク）の姿である。その情熱と行動力は、多くのボランティアや参加者を自然と引きつける力になっていると感じた。



また、古賀洋子市議会議員も常連として積極的に活動を支援されており、地域全体でこの活動を支えている様子が伝わってきた。



コンサートでは参加者全員が音楽を楽しみ、子ども食堂ではボランティアが工夫を凝らした料理を囲み、子どもたちの笑顔があふれていた。さらに、高校生が地域の子どもたちと一緒に遊ぶ姿からは、世代を超えた交流が自然に生まれていることを実感した。

こうした一つひとつの場面から、「**元気なこども、元気なおとなを育む森**」というコンセプトが単なる言葉ではなく、実際の活動として地域に根付いていることを強く感じた。

村田さんは今後について、「団体利用だけでなく個人利用も受け入れ、癒しの森、遊びの森として、大人も子どもも安心して集える居場所づくりを進めていきたい」と語られていた。

この25年間で築かれてきた地域との信頼を礎に、ふれあいの森なんでも工房は、これからも多くの人が集い、自然の中で交流し、笑顔になれる地域の拠点として発展していくことを期待したい。（橋本）